

## 「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等(平成20年7月分)について

(1) 問い合わせ件数

平成 20 年7月1日～平成 20 年7月31日

71 件

(2)内訳

① 食品安全委員会関係	8件
リスクコミュニケーション	5件
広報・ホームページ・メールマガジン	2件
食育	1件
② 食品の安全性関係(注1)	12件
化学物質系	11件
新開発食品等	1件
③ 食品一般関係(注2)	47件
化学物質系	13件
生物系	1件
新開発食品等	3件
衛生関係	22件
食品表示関係	7件
その他	1件
④ その他	4件

注1) 食品の健康影響評価に関する事、ファクトシートの内容に関する事等、主として食品安全委員会の行う科学的評価に係る事項

注2) 食品一般に関する事項及び表示や衛生管理等、主としてリスク管理に係る事項

### (3) 問い合わせの多い質問等

#### 【食品の安全性関係】

Q. ビスフェノールAのリスク評価が行われるとききましたが、どのような問題点があるのですか。

A. ビスフェノールA<sup>※1</sup>については、動物の胎児や子どもが、従来の動物実験で有害な影響がないとされた量（5mg/kg体重）に比べて極めて低用量の曝露（2.4～10 μg/kg体重）を受けると、神経や行動、乳腺や前立腺に影響が認められたという報告があり、また、厚生労働省における最近の研究結果として、妊娠動物への投与により、これまでの報告よりさらに低い用量（0.5 μg/kg体重）からその子どもに性周期異常等の遅発性影響がみられたとの報告がありました。

これらの実験は、ヒトの健康への影響を評価するための確立した実験評価手法で行われたものではなく、国際的にも議論があり、今後の調査研究の進展が必要ですが<sup>※2</sup>、影響を受けるかもしれない対象が胎児や乳幼児であることを踏まえ、食品安全委員会では厚生労働省からの依頼に基づき、その健康影響評価を行うことになりました。

なお、欧州食品安全機関（EFSA）は本年7月、人体はビスフェノールAを速やかに代謝し排出するため、母体の曝露による胎児への曝露は無視できるとの科学的意見を発表しています。

※1 ビスフェノールAは、ポリカーボネート樹脂、エポキシ樹脂などの原料として使用される化学物質で、耐容一日摂取量（これ以下の摂取量では一生毎日摂取しても有害な影響が現れない量）は0.05mg/kg体重/日に設定されています。

〈ポリカーボネート製品におけるビスフェノールAの規格基準〉

- ・材質試験基準（製品中に残留するビスフェノールAの量）500ppm以下
- ・溶出試験基準（製品の表面から溶出するビスフェノールAの量）2.5ppm以下

※2 米国食品医薬品局（FDA）は現在リスク評価を行っており、「ビスフェノールAの曝露量について、健康への影響を及ぼすレベルを下回っていることを裏付ける多くの証拠があるが、新しい研究や知見が入手できれば引き続き検討を行う」ことを表明しています。また、カナダ政府は予防的アプローチとして、ポリカーボネート製ほ乳瓶の輸入及び販売等を禁止しています。

#### (参考)

食品安全委員会ホームページ（食の安全ダイヤルQ&A）

[http://www.fsc.go.jp/sonota/sonota\\_qa/bisphenol\\_a.pdf](http://www.fsc.go.jp/sonota/sonota_qa/bisphenol_a.pdf)

厚生労働省ホームページ（ビスフェノールAについてのQ&A）

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/kigu/topics/080707-1.html>